

羽衣国際大学 DX推進計画について

(目的、取組内容、計画、指標、進捗状況等)

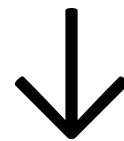
全体の目的、取組内容、計画、指標

DXの推進計画の目的

学生の成長のために、デジタル技術を活用して
新たな教育(学習)モデルを創出・柔軟に改変すること

※「学生の成長度が最も高い大学として社会的評価を得る」

(羽衣国際大学第Ⅲ期中期計画の目標)



DXの推進計画の目的

DX推進計画の最終目標は、授業の反転化により学生の授業へのコミットメントを高め、学びの量を増やすとともにその質を高め、自らの学修成果を自らの言葉で発信できる自立的学修者 (Independent Learner) へと学生を育成することにある。

DX推進計画の内容

3カ年のDX推進計画(2021~2023年度)

1. 授業の反転化 【自律的学習者の育成】
2. 動画レポート 【学修成果の可視化】
3. VRによる学生支援 【学生支援の拡充】

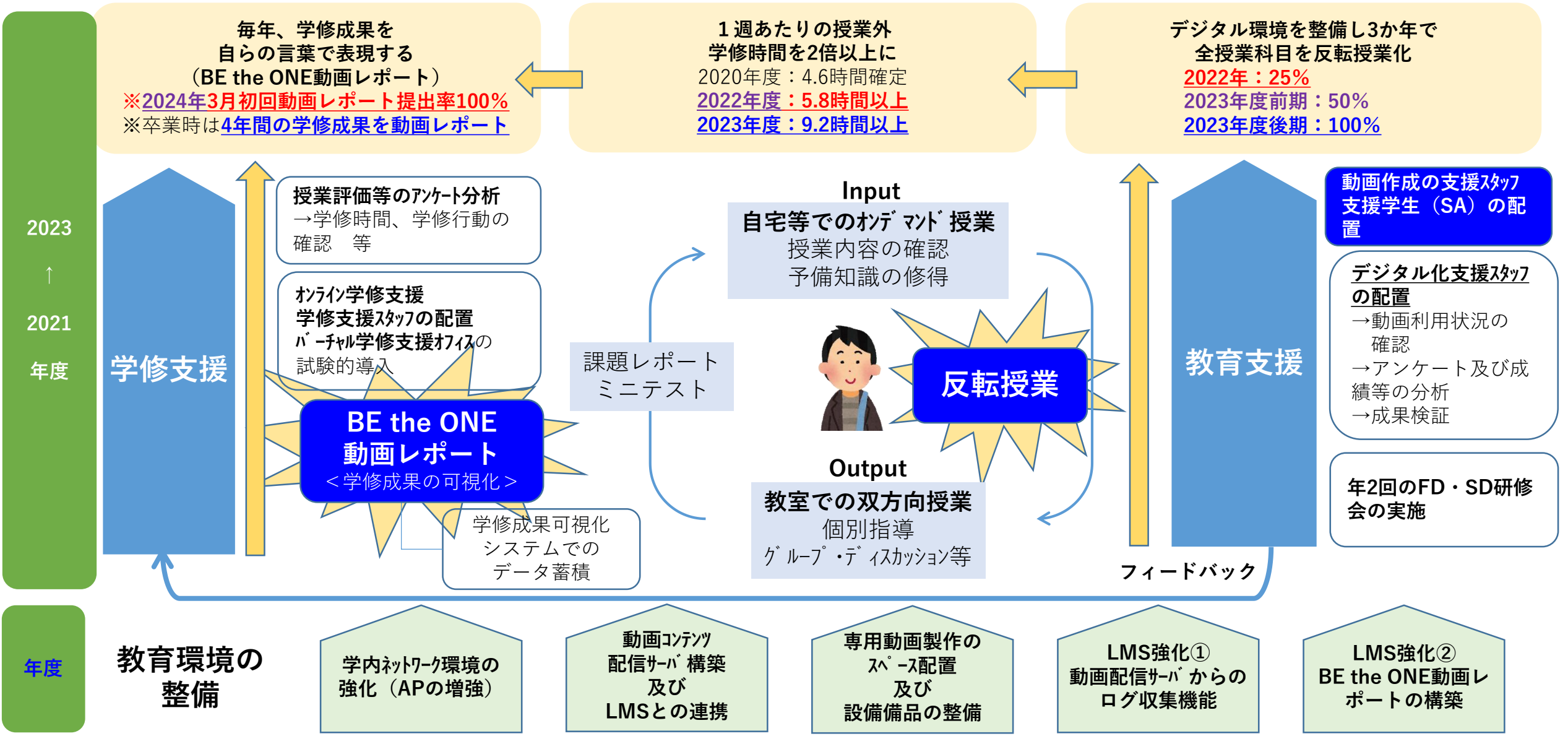
<環境整備>

AP強化、スタジオ整備、補助人員整備、VRシステム導入
サーバー&LMS連動システム構築

【事業概要図】

羽衣国際大学

DX推進計画（2021～2023年度）の実施による全学的効果 ‘能動的学修を通して自律的学修者を育てる’



個別の取組内容、計画、指標

授業の反転化

授業反転化の趣旨

the flipped classroom / the inverted classroom



従来教室の中でおこなわれていた授業学習と、
演習や課題など宿題として課される授業外学習とを
入れ替えた教授学習の様式

(cf. Lage, Platt & Treglia, 2000; 山内・大浦, 2014)

講義部分をオンライン教材として作成し授業外学習として予習させ、
対面の教室、すなわち授業学習では、予習した知識・理解の確認や
その定着、活用・探究を協同学習などを含めたアクティブラーニング
でおこなう

参考: 溝上慎一のホームページ [http://smizok.net/education/subpages/a00029\(flipped\).html](http://smizok.net/education/subpages/a00029(flipped).html)

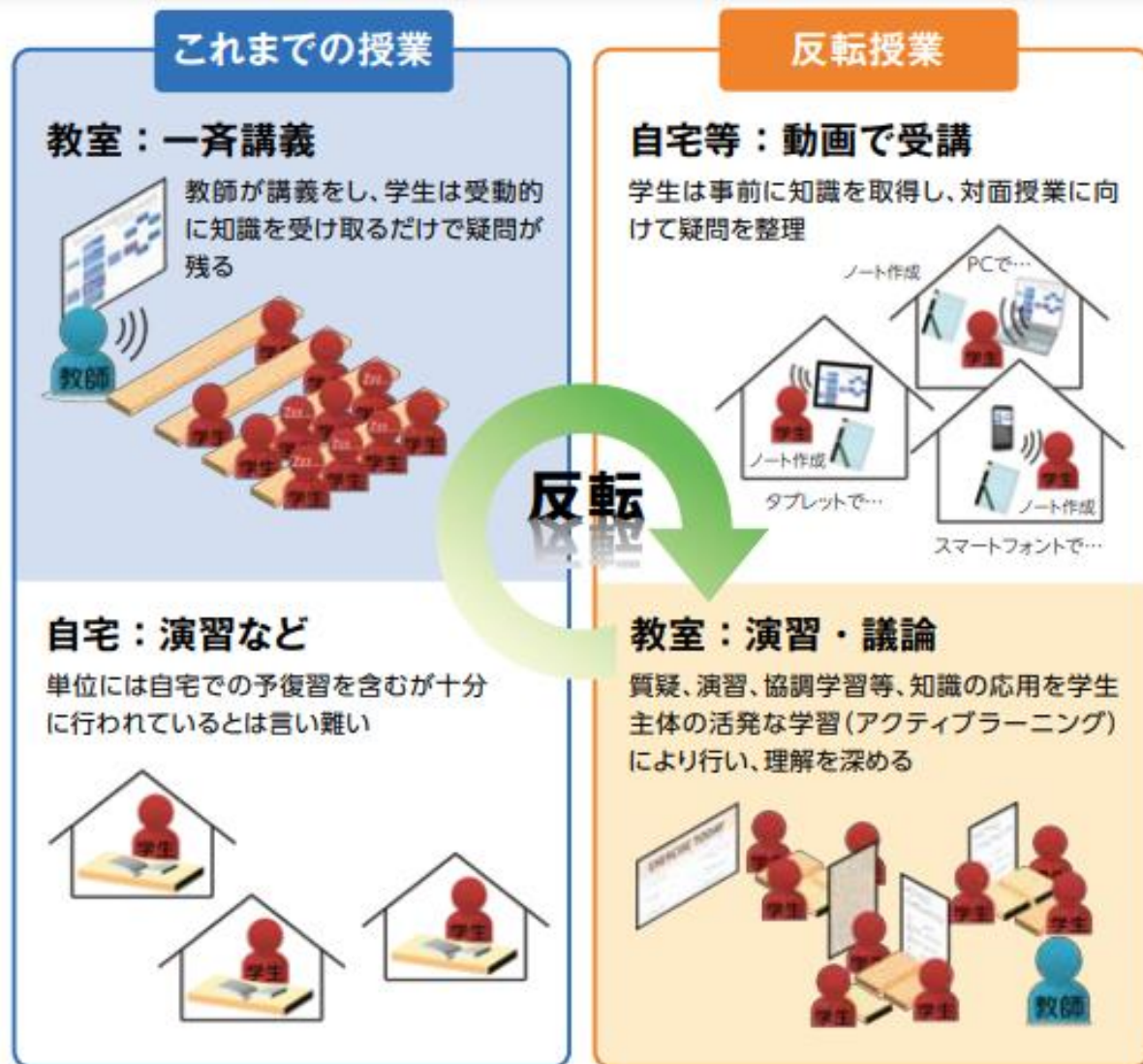
アクティブラーニング型授業の一つ

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

反転授業のイメージ



どんなタイプの反転授業があるか？

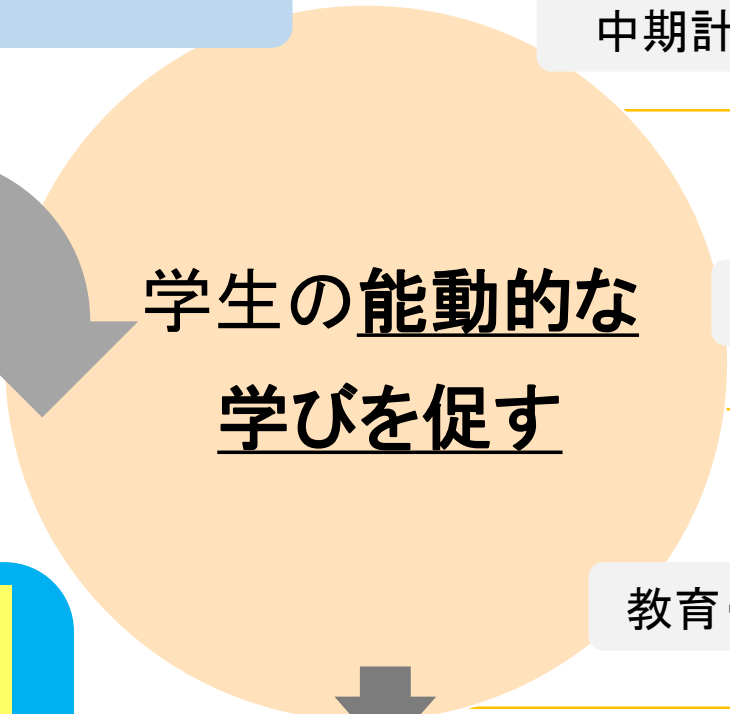


どんな授業で反転化が可能か？

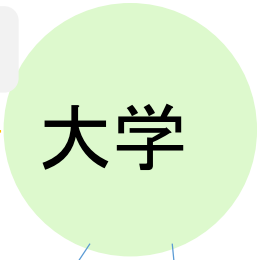
反転授業 (アクティブラーニング型授業の一形態)

(講義など+アルファ)、基礎知識の確認、応用学習、
学生同士の学び合い(GW)、個別支援

対面(授業)



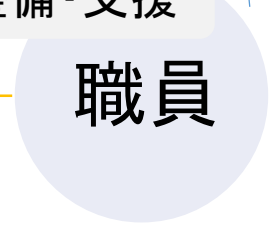
中期計画(目標)設定



経験交流・教育研究(FD)



教育・学習環境の整備・支援



遠隔(予習・復習)

(動画配信)授業のポイント、基礎知識の理解、プレリサーチ(下調べ)

復習(振り返り)
動画の視聴、レポート、ミニテスト、リフレクションペーパーなど

授業反転化の計画

授業の反転化

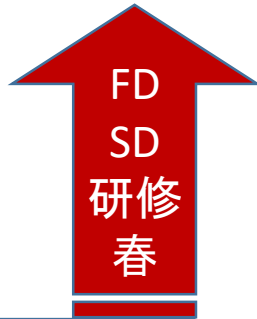
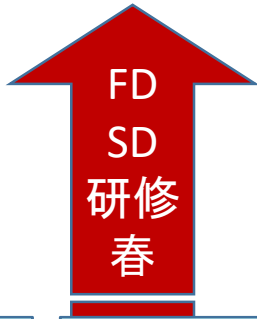
(2021年度～2023年度)

CLEVAS導入
12月

学内サーバ構築
3月

動画レポート用
Webポータル改修 5月

準備期間	2021年度後期	2022年度前期	2022年度後期	2023年前期	2023年度後期
2021年3～9月	2021年9月～ 2022年1月	2022年4月～ 2022年7月	2022年9月～ 2023年1月	2023年4月～ 2023年7月	2023年9月～ 2024年1月
(準備期)	(試行期①)	(試行期②)	(試行期③)	(改善実行期①)	(改善実行期②)
実施要領 反転化事例集 FDSD研修会 シラバス反映 学生への告知	専任:1～2科目 非常勤:指定科目	専任:2科目 非常勤:試行導入	専任:2科目 非常勤:試行導入	専任:全科目 非常勤:全科目	専任:全科目 非常勤:全科目



教員アンケート実施①

教員アンケート実施②

反転化事例集1

教員アンケート③

反転化事例集2

授業反転化に関わる施設等整備

※Be the One動画レポート関係も含む

教育環境の整備（DX推進計画）

- □専用動画製作スペースの設置と設備備品の整備
- □動画コンテンツを保管し、配信、学習履歴を確認、記録するためLMSと連携したファイルサーバシステム（Clevas）を構築
- □学内での視聴をスムーズに行うためアクセスポイントを強化
- □動画コンテンツ製作を支援する常駐スタッフを配置
- □動画コンテンツ製作のための講習会の実施

授業反転化の指標

授業反転化の指標

- 授業の反転化率 100%
- 授業外学習時間 9.2時間以上

授業反転化の進捗状況

授業反転化の進捗状況(2022年度)

- 全授業年間コマ数 962コマ
- 内反転化コマ数 253コマ
- 2022年度 授業反転化 実施率 26.3%

※但し、スレッド、レポート、お知らせ機能からの集計で、Webポータル外での指示などは除く(総務課:情報担当職員の集計による)

※2023年度分は現在集計中(2024年5月 報告書作成予定)

授業反転化のための動画作成状況

CLEVAS導入以来
反転授業のための
543本の動画作成
(2023.12月現在)

授業外学習時間

実施前(2019年度): 4.6時間
現在(2022年度): 6.6時間

2 動画レポート

Be the One動画レポートの趣旨

BE the ONE 動画レポート 【学修成果の可視化】

建学の精神 → 大学の使命・目的 → 教育目標 → DP(学位授与方針)

内部質保証(教育の質保証) → 学修成果の可視化

学業成績(GPA)、単位取得、資格取得、卒業研究・制作、卒業後進路
(学習状況、学生意識調査、卒業時満足度調査、企業アンケート)

学修ポートフォリオ(DP達成度評価)

自己評価が基本

「BE the ONE動画レポート」

Be the One動画レポートの計画

BE the ONE動画レポートの流れ

<4年間の流れ>

趣旨:学修成果の可視化

「4年間の学びを一人ひとりの学生が自分らしく、自分の言葉で生き生きと発信できる」

1年次終わり:1年間の学生生活を踏まえ、自分を表現(自己紹介and/orプレゼン)



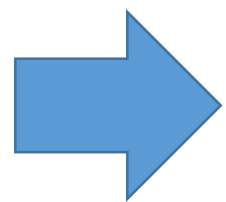
2年次終わり:2年間の学生生活を踏まえ、自分を表現(力入れたこと、入れて行きたいこと)



3年の終わり:3年間の学生生活を踏まえ、「ショーケース」として公開できる内容をまとめる※就職面接対策(ガクチカ)につなげることを想定

BE the ONE 動画レポート導入計画 【学修成果の可視化】

2023年10～11月	2023年12月	2024年1～2月	2023年3月
実施要領 モデル動画制作	周知期間	収録・アップ期間 (1年生)	学内共有



(2024年度)2年次2月2回目収録
(2025年度)3年次2月3回目収録
(「ショーケース」として公開する予定)

Be the One動画レポートの指標

授業反転化の指標

- Be the One動画レポートアップロード率 100%

Be the One動画レポートの進捗状況

Be the One動画レポートのアップロード状況

162本の動画レポートが
アップロードされました

アップロード率 50%
(2024.3月現在)